

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070001153		
法人名	有限会社 リトルデン		
事業所名	グループホーム おひさまの家		
所在地 (電話番号)	〒800-0337 福岡県京都郡苅田町大字稲光1130-1 (電話) 0930-25-8886		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年8月20日	評価確定日	平成21年8月28日

【情報提供票より】(平成21年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日(ヒマワリ)	平成15年11月1日(コスモス)
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	18 人	常勤(専任16人兼務2人) 非常勤0人 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物形態	単独	築6年(コスモス)	築4年(ヒマワリ)
建物構造	木造		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	光熱水道料 6,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (50,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(平成21年7月15日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 小波瀬病院 ・ 門司歯科医院 ・ 小倉東クリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームおひさまの家は、緑豊かな雑木林と池に囲まれ、隣接地には小規模多機能ホームが併設している。広い敷地の中に建てられたホームは広々として、のどかな雰囲気を演出している。施設長、管理者、職員は利用者の尊厳を守り、一人ひとりのその日の心身の状態を見守りながら、家族の一員として、日々の生活を楽しみ過ぎていく。自立支援に向けた取り組みは多様で、家族からの信頼も厚い。地域の敬老会には利用者や職員が歌や踊りを披露したり、保育園児との交流、独居高齢者への声かけ運動、また、ホームの夏祭りには、家族や地域の方がたくさん参加してもらい、交流の輪が広がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回は「職員を育てる取組み」「防災訓練の実施」などであるが、改善に向けて取り組んでいる。今回は「研修会や内部学習会など実施しているが記録や資料の整理」「災害に備えて夜間を想定した避難訓練の実施と非常食、飲料水、毛布などの備蓄」等が改善課題である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は施設長、管理者、職員で話し合い作成している。管理者は評価の意義を理解し、日々努力している。今後は全職員が自己評価を分担して作成し、評価結果を回覧し、評価の内容を共有するなど、改善に向けて努力していくことが望まれる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は2ヶ月毎に開催し、利用者、家族会、町会議員、区長、老人会会長、小規模多機能ホーム職員、ホーム職員が参加し、ホーム活動報告、地域情報、家族会からの質問や要望等、活発な意見交換会である。管理者は意見を取りまとめ、ホーム運営に反映できるように、職員と協力し、努力している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月「おひさまの家」「かくや姫」協同でホーム便りを発行し、家族や関係者に配られ、利用者のホームでの暮らしぶりを報告し、好評である。意見箱を玄関に設置し、内外の苦情窓口を掲示しているが、家族からの苦情はない。管理者と職員は家族の来訪時には親しく話し合う時間を設け、要望や苦情が言いやすい雰囲気をつくり、出された意見はホーム運営に反映できる体制である。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎年、町内と合同で夏祭りをホームで開催し、盆踊り、屋台、スイカ割り、小倉祇園太鼓、花火など、ボランティアの方の協力で盛大に行われている。また、地域の方の協力でホームの畑で野菜作りをお願いしたり、保育園児との交流は利用者の楽しみの一つである。地域の独居高齢者に「一声運動」を町内の方と実施して、活動の輪を広げている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	理念の基本方針の中に「地域の交流を大切に、地域に開かれたグループホームを目指す」と掲げ利用者が安心して地域の中で暮らしていける配慮がある。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、月例会議で意見交換を行ない、理念を共有しながら毎朝理念を唱和し、実践が出来るように工夫している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	利用者と職員は地域の行事に積極的に参加し、敬老会では歌と踊りを披露したり、町内会と合同で夏祭りをホームで開催したり、中学生の体験学習や保育園児との交流などで、地域の一員として活動している。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価は会議で職員の意見を聴き、管理者が取りまとめて作成している。管理者は評価の意義を理解し、評価結果を踏まえて、改善に向けて努力している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	会議は2ヶ月毎に小規模多機能ホーム「かくや姫」と合同で開催し、地域住民や家族が出席し、ホームから現状説明や行事予定などが報告され、参加者からは質問や要望、情報提供等、双方向的会議として、ホーム運営に反映されている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
6	9	市町村との連携	市町村、社会福祉協議会の研修には積極的に参加し、SOSネットワークに参加したり、施設長が社協で講師を務めたりして、協働体制が出来ている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が研修会に参加し、職員に説明し、理解してもらっている。現在、成年後見制度利用者が2名いる。パンフレットを用意していつでも利用者や家族に説明できる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	小規模多機能ホームかぐや姫と協同でホーム便りを毎月発行している。家族、知人、利用者は毎月見るのが楽しみなくらいの力作でホームの自慢の一つである。また、同時に利用者一人ひとりのホームでの暮らしぶりや健康状態も家族に報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情窓口を掲示しているが、なかなか意見が出てこない。ホームに介護をお願いしている家族の心情を理解して、家族の来訪時には職員が、必ず時間を取り、親しく話し合い、要望や苦情を聴きだすようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホーム2ユニット、小規模多機能ホームと合同で行事を行い、職員と利用者の馴染みの関係をつくり、職員の異動があった場合、利用者のダメージが、最小限になるように配慮している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は性別、年齢の制限はない。3か月の見習期間後、施設長、管理者と話し合い、双方納得の上で入社している。また、職員の勤務時間等希望を聞き、勤務ローテーションを作成し、職員が働きやすい環境をつくる努力をしている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	施設長、管理者は、人権研修に参加し、ミーティングなどで説明している。		人権研修に参加し職員全員に説明している。今後は会議の日時、参加者、内容や内部研修等の記録を整理し、誰でも閲覧できるようにして、内容を共有し、啓発活動に繋げていくことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会受講希望者の職員には、勤務時間等調整して受講できるようにしている。施設長、管理者は職員の得意、不得意を把握し、得意分野で活躍できるように支援している。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークつくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都地区のグループホーム協議会に参加し、毎月、勉強会を開催し、情報交換や技術の交流を図っている。また、職員同士の相互訪問等で交流し、介護サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ホーム見学会や体験入居を通じて、入居希望者と馴染みの関係づくり、入居後は利用者や家族からの聞き取りを基に、暫定プランをつくり、少しずつ、馴染みながら、安心して生活できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員と利用者は一緒に暮らし、学び、支え合う関係である。職員は利用者のどんな小さなことでも頑張っていることを、見逃さず、一緒に頑張る支援している。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は利用者の日々の暮らしの中や会話で、本人が希望していることを把握し、出来るだけ希望にそえるように努力している。意向表出の出来ない利用者には、過去の履歴や家族、知人等に相談したりして本人本位の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画は、利用者、家族の希望を聴き、提携医や担当職員とよく話し合い、カンファレンスを行い計画書を作成している。		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画は3か月毎に利用者、家族、関係者と話し合い、見直ししている。利用者の状態変化に合わせて随時介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎、外出、外泊、家族宿泊、出張マッサージ等利用者や家族の要望に出来るだけ応えられるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、利用者や家族の希望を優先して、かかりつけ医を決めている。緊急の場合等、ホーム提携医や救急病院を利用することを、利用者や家族に納得してもらっている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期に備えて、家族、主治医と日頃から連絡を取り、家族の意向を確認し、職員全員で共有できる体制である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底し、さりげない声かけを実施している。個人記録等は鍵のかかるロッカーで保管している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが職員は、利用者のその日の心身の状態を把握し、一人ひとりのペースを大切に、利用者の希望にそってその人らしく暮らせるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は食材の買い出しや下ごしらえ、配膳、下膳、茶わんふきなど楽しそうにしている。食事は同じテーブルで、同じものを食べ、食後の楽しそうな会話が印象的である。また、月に一度利用者のセレクトメニューや、誕生日の本人希望メニュー等充実した支援が出来ている。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2ユニットで交代で行っているため、毎日入ることも可能である。利用者の希望する時間に出来るだけ合わせて入浴できる支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴や得意分野を把握し、一人ひとりに合った役割を考え、お願いしている。カレンダー作り、季節ごとの作品、折り紙、ホールの中での歩こう会等、日々の暮らしがマンネリ化しないように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者と職員は3か月に1回の野外レクリエーションや買い物、外食、ドライブ、近所散策など利用者一人ひとりに合わせて、その日の体調を配慮し、支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は日中はかけていない。鍵をかけることの弊害を職員は理解し、利用者の習慣を把握し、外に出かける時は、一緒にさりげなくついていき、鍵をかけない工夫をしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	老人会会長、区長、民生委員、地域住民にお願いして、避難訓練に参加してもらえるようにしている。警報器を設置し、防災対策も実施している。		地域住民の協力を得て、夜間を想定した防災訓練の実施と非常災害時に飲料水、非常食、毛布等の備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎日の食事、水分の摂取量を記録し、利用者の健康状態をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に季節を五感で感じてもらえるように、ホールの壁に季節感のある手作りの作品をみんなでつくり、暮らしやすい共用空間である。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で利用者が自宅で生活しているのと同じように、馴染みの家具や使い慣れた物を持ち込んでもらい、ホームの生活に支障のないように居心地よく過ごせるように支援している。		